

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	釜石市すくすく親子教室			
○保護者評価実施期間	令和7年1月30日 ~			令和7年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数)	9人
○従業者評価実施期間	令和7年1月30日 ~			令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月10日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの児童の特性に合わせた安全安心な支援	・毎日、支援後に振り返りを行い、課題点や今後の支援方法について職員間で共有している。また、降所時やフィードバックの際に保護者様へ子どもの状況や課題について話をしたり、必要な場合は個別相談の機会を設けている。	課題の捉え方に齟齬がある場合には、保護者の声や思いに寄り添いながら、さらに丁寧な対応を行っていく。学校や他事業所など関係機関との情報共有及び連携を強化していく。
2	行政関係部署との連携	行政が運営する事業所であるため、母子保健、教育、福祉の関係部署との情報共有が迅速に行われている。	こども家庭センターと協議する場をセッティングし、課題の共有やそれぞれの役割分担を確認し、より良い支援提供につなげていく。
3	近隣の公共施設（児童館・公民館）との関わり	放デイ児童が、月1回「お便り配り」のため近隣施設、嘱託医の病院を訪問している。 児童館や公民館から時季に応じたイベントにお声がけいただき、参加している。	児童館や公民館の施設利用する機会は増えたが、児童や地域住民の方々との交流の仕方等について、今後検討を進めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内研修の継続実施や専門機関が開催する研修の受講が難しいこと	療育時間と研修時間が重なることが多いため、職員全員での研修が難しい。	施設内研修は、職員会議と併せて実施するなど時間設定の仕方を工夫する。 職員体制を調整し、WEB研修の積極的な受講を勧めていく。
2	地域住民や児童との交流が希薄であること	これまで、新型コロナウイルス等の影響により行事の規模縮小や参加者の制限を行っていたため、交流する機会を持つことが難しくなった。	児童館や公民館に相談しながら、無理なく地域の皆さんと交流が持てるようなやり方を検討していく。
3			